

ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点が「NoMaps釧路・根室」を共催

ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点は、9月11日（水）、釧路プリンスホテルにおいて、大地みらい信用金庫、一般財団法人大地みらい基金と共に、「NoMaps釧路・根室」を開催しました。

「NoMaps」は、北海道を舞台に新しい発想や技術によって、より良い未来を創ろうとする人々の交流を目的としたコンベンションであり、今大会は、釧路・根室管内の基幹産業である水産・酪農・観光業と、最先端の工学・情報技術をつなぐ場を設け、大学研究機関、情報工学関連企業と地元企業のマッチングによる新技術の開発、新規事業の創出及び地域基盤産業の強靱化とイノベーションを目的に、「NoMaps釧路・根室」の名称で、初めて札幌以外で開催されたものです。プログラムは、セッション1「観光業×テクノロジー」、セッション2「情

報技術」、セッション3「水産・酪農業×テクノロジー」の3部に分かれ、本学ロバスト拠点はセッション3を担当しました。

セッション3は、モデレーターを務める瀬戸口剛工学研究院長からの趣旨説明で始まり、増田隆夫工学研究院教授から「北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点の取り組み」と題して、当拠点事業の目的と組織・運営体制、活動実績について説明がありました。次いで、田熊秀行工学研究院特任教授から「北大ロバスト拠点研究シーズ」と題して、当拠点が手がける温室プロジェクトや、ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォームの各分科会の代表的な研究シーズ、そして釧路・根室地域の農林水産業に関連すると考えられる研究シーズの紹介がありました。続いて、岡本博史農学研究院准教授から「ICTを活用した

スマート農業～農業のロボット化と情報化～」という表題で、田植機の自動操舵や安全センサー、リモートセンシング技術について動画を交えた説明がありました。また、説明の中ではスマート農業の推進を目的とした、タイ王国との連携協定の活動にも触れました。最後に、和田雅昭公立はこだて未来大学教授から「2030年の水産業」と題して、情報処理技術を融合した新たな研究分野である「マリンIT」について、水産試験場や漁業者と一体で取り組んでいる持続可能な沿岸漁業の実践の紹介がありました。

今大会には、民間企業や行政機関などから234名が参加し、セッション終了後、多くの参加者が当研究会に入会を希望するなど、先端技術に対する地域の関心の高さがうかがえました。

(工学研究院)



モデレーターを務める瀬戸口工学研究院長



発表を行う増田工学研究院教授



発表を行う田熊工学研究院特任教授



発表を行う岡本農学研究院准教授



発表を行う和田公立はこだて未来大学教授



会場の様子